

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 四国財務局長

**【提出日】** 平成25年9月13日

**【四半期会計期間】** 第13期第3四半期(自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)

**【会社名】** ベルグアース株式会社

**【英訳名】** Berg Earth co.,ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山口 一彦

**【本店の所在の場所】** 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

**【電話番号】** 0895-20-8231(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営管理部長 越智 正勝

**【最寄りの連絡場所】** 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

**【電話番号】** 0895-20-8231(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経営管理部長 越智 正勝

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第12期 第3四半期累計期間	第13期 第3四半期累計期間	第12期
会計期間		自 平成23年11月1日 至 平成24年7月31日	自 平成24年11月1日 至 平成25年7月31日	自 平成23年11月1日 至 平成24年10月31日
売上高	(千円)	2,404,842	2,541,905	3,573,012
経常利益	(千円)	49,358	89,045	177,073
四半期(当期)純利益	(千円)	23,348	53,445	92,549
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	331,494	331,494	331,494
発行済株式総数	(株)	1,269,900	1,269,900	1,269,900
純資産額	(千円)	829,717	948,056	898,898
総資産額	(千円)	2,383,149	2,453,844	2,405,335
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	18.87	42.09	74.31
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			5.00
自己資本比率	(%)	34.8	38.6	37.4

回次		第12期 第3四半期会計期間	第13期 第3四半期会計期間
会計期間		自 平成24年5月1日 至 平成24年7月31日	自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	16.40	11.72

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、第12期第3四半期累計期間及び第12期においては、関連会社が存在しないため、第13期第3四半期累計期間においては、関連会社が1社存在しますが、損益及び利益剰余金等からみて重要性が乏しいため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政権交代に伴う景気対策への期待感から円高の是正や株価の回復が見られ、本格的な景気回復への期待感が高まってきました。

当社の属する国内農業におきましても、政権交代による期待感はあるものの、具体的な政策については検討段階である他、TPP参加による影響など依然として先行きは不透明な状況が続いておりますが、当社はグローバル化も視野に入れた苗事業の拡大を目指し、野菜苗の生産能力拡大及び営業強化を引き続き推し進めました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,541,905千円と前年同四半期と比べ137,062千円(5.7%)の増収となりました。利益面では、前年同四半期と比べ流通事業のセグメント損失が原価率改善効果等により24,829千円縮小した結果、当第3四半期累計期間の営業利益は69,460千円と前年同四半期と比べ28,780千円(70.7%)の増益、経常利益は89,045千円と前年同四半期と比べ39,687千円(80.4%)の増益、四半期純利益は53,445千円と前年同四半期と比べ30,096千円(128.9%)の増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (野菜苗生産販売事業)

当事業部門におきましては、平成24年3月に開設した茨城農場の期初からの稼働に加え、平成25年3月には松山農場を新設しました。また、最大の需要期である春の家庭園芸シーズンには委託・提携農場を前年より5農場増やし、野菜苗の生産能力拡大を積極的に行いました。この結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,308,194千円と前年同四半期と比べ158,271千円(7.4%)の増収となりました。利益面では増収効果等により売上総利益は前年同四半期と比べ39,601千円増加したものの、営業部門の人件費や野菜苗の配送費などが増加した結果、セグメント利益(営業利益)は286,954千円と前年同四半期と比べ7,952千円(2.9%)の増益となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	794,153	112.0
キュウリ苗	721,793	100.3
ナス苗	303,091	100.9
スイカ苗	205,165	126.3
メロン苗	122,967	122.3
ピーマン類苗 (注)	54,622	87.3
その他苗	106,400	111.2
合計	2,308,194	107.4

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm~15cm)	1,287,497	105.9
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、ウイルスガード苗等)	636,504	108.2
セル苗(288穴~72穴)	379,767	112.0
その他苗	4,424	62.3
合計	2,308,194	107.4

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	367,405	106.9
関東	783,955	112.4
中部・甲信越・北陸	439,202	103.7
近畿・中国・山陰	441,364	105.5
四国	147,067	90.5
九州・沖縄	129,198	123.9
合計	2,308,194	107.4

( 流通事業 )

農業資材部門は、オリジナル培養土や肥料等の販売が拡大し前年同四半期と比べ増収となりました。農産物部門は、販売先及び仕入先との取引条件の見直しや配送費の削減等に注力した結果、前年同四半期と比べ売上高は減収となりましたが、損益面では改善が図られました。コンビニエンスストア部門は、概ね前年同四半期と同等の業績となりました。

この結果、当事業部門における当第3四半期累計期間の売上高は233,710千円と前年同四半期と比べ21,208千円(8.3%)の減収、セグメント損失(営業損失)は21,019千円(前年同四半期はセグメント損失45,848千円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べ48,509千円(2.0%)増加の2,453,844千円となりました。これは、受取手形及び売掛金が232,027千円、有形固定資産が16,038千円それぞれ減少した一方で、現金及び預金が128,387千円、たな卸資産が175,707千円それぞれ増加したこと等によるものであります。

負債は、前事業年度末と比べ647千円(0.0%)減少の1,505,788千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が23,848千円、未払金が39,242千円それぞれ増加した一方で、未払法人税等が35,777千円、賞与引当金が14,861千円、長期借入金が27,849千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

純資産は、前事業年度末と比べ49,157千円(5.5%)増加の948,056千円となりました。これは、四半期純利益の計上等により利益剰余金が47,096千円増加したこと等によるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は12,039千円であります。

なお、当第3四半期累計期間において当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 主要な設備

前事業年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期累計期間に完成したものは、次のとおりであります。

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資額	完成年月
松山農場 (愛媛県松山市)	野菜苗生産販売事業	生産設備	31,996千円	平成25年3月

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年7月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年9月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,269,900	1,269,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	1,269,900	1,269,900		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年5月1日～ 平成25年7月31日		1,269,900		331,494		241,494

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,269,000	12,690	
単元未満株式	普通株式 900		
発行済株式総数	1,269,900		
総株主の議決権		12,690	

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年4月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年11月1日から平成25年7月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。



1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年10月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年7月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	167,045	295,433
受取手形及び売掛金	765,173	533,145
商品及び製品	6,128	6,951
仕掛品	45,448	186,769
原材料及び貯蔵品	71,645	105,208
その他	41,950	48,953
貸倒引当金	1,646	1,556
流動資産合計	1,095,746	1,174,905
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	616,242	610,276
機械及び装置（純額）	118,276	108,027
土地	419,876	419,876
その他（純額）	9,850	10,027
有形固定資産合計	1,164,245	1,148,207
無形固定資産	35,899	34,264
投資その他の資産	109,443 <sub>1</sub>	96,467 <sub>1</sub>
固定資産合計	1,309,588	1,278,938
<b>資産合計</b>	2,405,335	2,453,844
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	363,666	387,514
短期借入金	250,000 <sub>2</sub>	250,000 <sub>2</sub>
1年内返済予定の長期借入金	159,880	156,826
未払金	88,727	127,970
未払法人税等	35,777	-
賞与引当金	33,500	18,639
その他	32,346	49,949
流動負債合計	963,898	990,899
<b>固定負債</b>		
長期借入金	515,136	487,287
資産除去債務	25,351	25,720
その他	2,050	1,881
固定負債合計	542,537	514,889
<b>負債合計</b>	1,506,436	1,505,788
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	241,494	241,494
利益剰余金	325,929	373,025
株主資本合計	898,917	946,013
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>評価・換算差額等合計</b>	19	2,042
<b>純資産合計</b>	898,898	948,056
<b>負債純資産合計</b>	2,405,335	2,453,844

(2)【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年7月31日)
売上高	2,404,842	2,541,905
売上原価	1,833,686	1,928,340
売上総利益	571,155	613,564
販売費及び一般管理費	530,474	544,103
営業利益	40,680	69,460
営業外収益		
受取利息	28	25
受取配当金	286	406
受取手数料	11,967	8,266
補助金収入	9,657	9,050
貸倒引当金戻入額	-	1,875
その他	4,250	4,383
営業外収益合計	26,189	24,006
営業外費用		
支払利息	6,007	4,406
株式交付費	1,891	-
上場関連費用	9,614	-
その他	-	15
営業外費用合計	17,512	4,421
経常利益	49,358	89,045
特別利益		
有形固定資産売却益	-	9
受取保険金	660	435
特別利益合計	660	445
特別損失		
有形固定資産除却損	530	10
リース解約損	788	-
特別損失合計	1,318	10
税引前四半期純利益	48,699	89,480
法人税、住民税及び事業税	15,982	26,291
法人税等調整額	9,369	9,743
法人税等合計	25,351	36,035
四半期純利益	23,348	53,445

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年11月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (平成24年10月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年7月31日)
投資その他の資産	4,671千円	2,885千円

2 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。前事業年度末及び当第3四半期会計期間末における当座貸越契約に係る借入金の未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年10月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年7月31日)
当座貸越極度額の総額	500,000千円	500,000千円
借入実行額	250,000千円	250,000千円
差引額	250,000千円	250,000千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年7月31日)
減価償却費	80,529千円	87,437千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成23年11月1日 至 平成24年7月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成24年11月1日 至 平成25年7月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年1月30日 定時株主総会	普通株式	6,349	5.00	平成24年10月31日	平成25年1月31日	利益剰余金

(持分法損益等)

前第3四半期累計期間(自 平成23年11月1日 至 平成24年7月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成24年11月1日 至 平成25年7月31日)

関連会社は損益及び利益剰余金等からみて重要性が乏しいため記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成23年11月1日 至 平成24年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	野菜苗生産販売 事業	流通事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,149,923	254,918	2,404,842		2,404,842
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	2,149,923	254,918	2,404,842		2,404,842
セグメント利益又は損失( )	279,001	45,848	233,153	192,472	40,680

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 192,472千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 平成24年11月1日 至 平成25年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額 (注)2
	野菜苗生産販売 事業	流通事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,308,194	233,710	2,541,905		2,541,905
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	2,308,194	233,710	2,541,905		2,541,905
セグメント利益又は損失( )	286,954	21,019	265,935	196,474	69,460

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 196,474千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年11月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間のセグメント損益に与える影響は軽微であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成23年11月1日 至平成24年7月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年11月1日 至平成25年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額	18円87銭	42円09銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	23,348	53,445
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	23,348	53,445
普通株式の期中平均株式数(株)	1,237,274	1,269,900

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 9月12日

ベルグアース株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 目 細 実 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 田 中 賢 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているベルグアース株式会社の平成24年11月1日から平成25年10月31日までの第13期事業年度の第3四半期会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年11月1日から平成25年7月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ベルグアース株式会社の平成25年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。